松尾育成会便り

第43号
令和２年度
松尾地区まちづくり委員会
公民館育成部
青少年健全育成会

松尾公民館剣道部・創立五十周年記念

八幡様や毛賀諏訪神社の拝殿や絵馬堂には、金的中(弓道)や奉納相撲の奉納額が数多く掲げられています。

野球や陸上競技等の近代スポーツは明治中期から学校や青年会を中心に盛んになりました。特に、昭和初年に建設された松尾学校の体操場・運動場は南信で最も広く優秀な施設であったため、村民のみならず上下伊那の各種体育大会の中心会場となりました。また、村民の体育向上にも大いに役立てられました。昭和八年には「全村運動会」が村の主催で開催され、今年は八十五回目のはずでした。

戦後は昭和二十四年に公民館に体育部ができ、昭和三十五年には柔剣道同好会が発足しています。

少年スポーツの始まりは「松尾公民館剣道部」が、昭和四十四年に松尾小学校で課外活動として剣道を取り入れた事からです。

今年、創立五十年を迎えました。創立当時からの部員名簿を受け継いでおり、その数は四百五十人になります。部員は、「克己忍耐」の教えの基、様々な分野で活躍されておられます。

五十年の歴史は、一家の中でお爺さん、お父さん、そして子どもさんと三世代で受け継いでいるご家庭が松尾地区内に二軒あるとの事です。剣道を受け継ぐスポーツ文化がしっかりと位置づいています。

今年、剣道部では、五十周年を記念して「松尾公民館剣道部五十周年記念誌」を編集出版しました。また、令和二年三月には「創立五十周年記念剣道大会」を計画していましたが、新型コロナウイルスのために中止となってしまいました。

現在「松尾少年スポーツクラブ」には十のクラブがあり、それぞれに長いあゆみを刻んでいます。中学校の部活動のあり方が議論されていますが、この機会に、もう一度少年スポーツをどのように進めていったらよいか考え合う良い機会だと思います。

創立五十年と記念誌発行

松尾公民館剣道部会長　松島王映

この度、松尾公民館剣道部が創立五十年の月日を迎える事が出来ました。ひとえに、歴代会長、指導員各位の献身的な指導と公民館関係者、地区内諸機関、飯田地区剣道連盟、保護者のたゆみない努力と御支援の賜物と心より感謝申し上げます。

剣道部が発足の頃には、数人の部員でしたが年度を重ねて行くごとに部員数も増えていきました。一時は八十名を数えるほどの部員数で体育館が狭くなるほどの人数でした。指導者も子供達の多さに御苦労があったと思います。また、地区の大会などで優秀な成績を収めることが多くありました。

剣道の心得で、「剣は心成り、心正しければ、剣また正しからず。剣を学ばんと欲すれば、先ず心より学ぶべし。」と言う教えがあります。また、生前の慈恩館長の教えに、「剣道は下駄を揃えて返事よく、お辞儀ができて我慢する事」の言葉を長い間子供達に教えています。最近は、生徒数も年々少なくて来ましたが、剣道を続けて行けるのも、入部して頂く子供達がいるからです。

剣道部も、五十周年を迎える事となり、記念誌を作成する事にしました。諸先輩の記録された資料を基に作成途中でコロナウイルス対応の為、活動が三ヶ月ほど中止になり、作成に苦労し発刊が遅れました。記念誌発行にあたり、寄稿頂いた皆様方には感謝申し上げます。

各関係者の皆様のお力添えを頂き、松尾公民館剣道部の更なる躍進ができます事を御願い申し上げます。

剣道再開

指導者　宮内直樹

私自身は鼎剣道部の出身です。小学四年生から剣道を始めました。当時は、今と違い、子供の人数は本当に多かったです。飯伊大会の個人戦も各学年百人以上の子供が参加していた記憶があります。小学生時代は全く試合で勝つことができませんでした。中学校では野球がしたかったのですが、剣道部に入部することになりました。中学一年生で飯伊大会の個人戦で三位に入賞することができました。すると嫌だった稽古も楽しくなりました。それからは優勝こそないものほぼ毎年飯伊大会の個人戦は入賞していました。高校は飯田高校に進学し、剣道を続けることになりました。当時は、指導者はおらず生徒の自主性で稽古を行っていました。先輩方の厳しい指導で毎日が本当に辛かったです。五十歳を超えた今でも竹刀が握られるのは高校時代の稽古が活きていると思います。全国大会出場を目標にして、盆、正月、試験休みを除き、毎日稽古の日々でした。新人戦県大会団体戦に優勝し、本番に臨みましたが予選リーグ敗退という残念な結果でした。ただ、個人戦は県三位に入賞し北信越大会に出場しました。大学でも同好会で続け、楽しいキャンパスライフでした。地元に就職し何年か剣道部で指導していましたが、仕事、結婚等の理由で中断してしまいました。長男が小学校四年、次男が小学校一年の時、松尾公民館剣道部で剣道を始めることになり、私も再開することになりました。何歳まで続けられるか分かりませんが、これからも一生懸命頑張りたいと思います。

クラブ・教室だより

松尾少年野球教室

礼儀・自主性・団結力

久保田洋行

松尾少年野球教室は現在、一年生から六年生まで総勢38名の部員がいます。主に土日、松尾小学校校庭で練習しています。四月から十二月まで20回程度各種大会へ参加しています。

教室では野球を通じて、礼儀（挨拶・マナーの徹底）自主性（自分で考える力、積極性）団結力（チームワークを重んじ、全員で決めた目標に向かい、喜びを分かち合う）ということを学んでいます。整理整頓、道具を大切にすることを大事にしています。野球の技術、体力の向上だけでなく、野球を通じ子供たちの心技体の成長を指導者、保護者とともに応援していきたいと思います。

松尾和太鼓教室

基本を大切に、楽しもう

指導　常盤太鼓「心」

自己主張強くリードしたいタイプ、気づかいよくまとめるタイプ、のんびり我が道を行くタイプ、物事に淡泊なタイプ、八人八様の小・中学生が集まった和太鼓教室。

例年、納涼祭や文化祭等々で演奏させていただいておりましたが、コロナ禍の今年、そうした機会が全く無く、内心もやもやした感じでした。

こうした時間を有意義にするために、これまでの演奏発表を意識した打ち方から、一打一音を正確に打つように見直しました。また、メンバー間で技術の向上を図りながら、楽しく打つように稽古をしています。

いつも稽古している太鼓曲を紹介します。門出・物事の始まりを勇ましく願う「勇駒」。めでたい祝い曲「飛竜三段返し」。山国信州の大自然の恵みに感謝「信濃萬岳の響き」。飛んでハネて楽しむ「災響」。暑い夏流れる汗「夏まつり」。一歩く山を登る、人生も「山呼」。初夏の薫風を飛び回る燕「蒼き風」。どの曲も力強く、迫力ある曲です。

定期稽古は、水曜午後六時～、日曜午後一時～、メンバー募集中！

松尾キンボールクラブ

つながり

会長　平沢広行

今年度は、活動開始が「コロナ禍」の影響で六月からとなりました。また各地の大会も中止となり、日ごろの練習の成果を発揮することができずにいました。いつもであれば、秋から始まる県外の大会に向けて練習をしている時、うれしい申し出がありました。それは、我クラブの卒業生を中心に結成された「飯田キンボールクラブ」から小学生を主体とした練習日を持ってもらえるということでした。ジュニア資格として大会に参加できるのは小学生までで、中学生からは一般資格となってしまいます。そこで、最後のジュニア大会に参加できない六年生のために次のステップに向き合える練習をしてもらえるというものでした。この練習に参加したこどもたちの顔は真剣そのもので、教え方のうまさもあり、言われたことをすぐに実践できてしまうことに驚きを感じました。松尾キンボールの目的に「様々な世代を超えてスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を保持・促進する」とありますが、今回の練習でまさに世代を超えた力強い繋がりを見ることができました。

全市型スポーツクラブ始まる

今年九月から、「飯田市中学校部活動の活動指針」が改訂されました。この活動の議論の背景として、部活動は中学生の心身の健全な発達に向けて極めて重要な活動であるものの、一部の過激化による長時間の活動、学習や家庭生活とのアンバランス、生徒や家庭の負担、責任の所在が曖昧な部活動の延長としての社会体育（文化）活動等の課題を受けて改訂されたものです。◎一日の活動時間は平日で長くとも二時間程度、休日で三時間程度◎部活動の延長として行われている社会体育（文化）活動は廃止。◎月～金及び土～日のそれぞれに一日以上の休養日を設ける。◎平日は各校で定められている下校時間に下校する。◎朝部活は廃止。

こうした中で「全市型競技別スポーツスクール」が立ち上がりました。理念としては「中学生が地域（コミュニティ）の中で、主体的に様々なスポーツ活動を行うことを通じて、心身の健やかな成長と豊かな社会性を育む」です。具体的には、全市を対象にして、飯田市教育委員会と公益財団法人飯田スポーツ協会が主管して、十三の種目で行うものです。

松尾少年スポーツクラブでは「柔道部」と「空手クラブ」が受け入れをしています。どのように運営していけばよいか課題はありますが、良い形になっていけばと願っています。

編集後記

新型コロナウイルスの蔓延により青少年健全育成会で計画されていた全てが中止となってしまいました。こうした中でも「育成会だより」はなんとか発行したいと考えてきました。今回は、創立五十周年を迎えた「剣道クラブ」を中心に編集させていただきました。

子どもたちのスポーツ離れと体力低下が顕著になっています。松尾地区での少年スポーツの始まりは、今回取り上げた「松尾公民館剣道部」です。今、中学校の部活動のあり方が大きく変わろうとしている時、多くの子ども達がスポーツをする楽しさを味わえるようにするにはどうすればよいか、地域として、「スポーツパークＩＩＤＡ構想」も含めて皆で考え合いたいと思います。

親子三代剣道が続いたこと

指導者　塩澤　直樹

私の家は、父親、私、息子と三代にわたって剣道を続けています。

父親は松尾剣道クラブ初代会長の故木下良美先生より「松尾で剣道をやりませんか」とお誘いを受けて松尾剣道クラブの立ち上げから始め、私が小学生の時には指導者として活動していました。私も最初は剣道とは何か分からないまま入部したので、礼儀作法から竹刀の使い方、足さばきと覚えることが多くあり全然できなくて、とても苦労しました。それでも入部してからは同級生も多数おり、先輩達に助けられながら続けることができました。それから、小・中・高校、そして現在まで続いています。今まで続けられた理由の一番は、楽しいからです。練習はとてもきつい時もありますが、「気・剣・体」が一致すると良い技が出てとてもスカッとします。

私の息子も私の練習に付いて来た時に「やってみるか」と聞いたら「やりたい」と言うので入部しました。私と同じように最初は礼儀作法から、竹刀の使い方、足さばきも上手くできませんでしたが、できないのがくやしかったらしく自分で考えながら練習している所は、私と違っていました。小・中・高校と剣道を続けてくれました。今は、剣道から離れていますが、何時かできるようになった時に、また始めてくれればと思っています。

我家には剣道で大事にしている挨拶、礼儀、姿勢、履物揃え等の「剣道精神」が流れていると思います。今後ともに剣道の指導者として「剣道精神」を大切にしていきたと思います。

私と剣道

中学三年　菅沼　あかね

私は強くなりたいと思い四年生から始めた。体験に行った時、激しく竹刀のぶつかる音や、力強い踏み込みの音、大きな声やスピードに目を奪われた。剣道は激しい戦いだと思っていたが、私が最初に先生から教わったことは「剣道は、礼に始まり礼に終わる」という言葉だった。剣道は相手がいないとできないので、相手に対する感謝の気持ちを忘れてはいけない。

防具を着けて練習し始めたころ、一人で面をつけられなかったり、体が思うように動かせなかったりなど、たくさん苦労した。でも先生やお母さんが手伝ってくれたり、支えてくれたりしたことで頑張ることができた。

中学校でも剣道部に入った。先輩方の圧倒される強さに驚かされた。練習試合に参加させてもらっても中々勝つことができなかった。そんな時先生から「攻めて負けるのは仕方がない。自分から攻めれば、いつかチャンスはくる。」と言われた。それからは自分より大きな相手や強い相手にも自分から攻めた。それでも、ビビらせる強い攻めができず、先輩の攻め方を研究した。最初はうまくできなかったが、練習を積み重ねるうちに、試合でも一本を取れることが多くなった。

剣道を通して剣道ができる喜び、相手や仲間がいることの大切さを知った。これからも、剣道を続けて心も体も強くなりたい。

松尾剣道クラブと僕

小学六年　神原　怜希

僕が入ったのは一年生の時で、兄が剣道クラブでやっていたからです。兄が剣道をやっているのを見た時はすごく簡単に思えたからですが、やってみたらすごく難しくて特に左足のかかとをずっと上げていなければならないのに、気づくと下がってしまうことに苦労しました。それでも松尾剣道部には何人もの先生がいて動きをしっかりと見て注意をしてくれたので、今はできるようになりました。

僕は飯伊大会で三年生の時から個人戦で優勝を続けています。竹刀のふり方も知らなかった僕が優勝できるようになったのは、いつも先生方が見ていてくださるからだと思っています。今年の大会も優勝することができました。ここまで育てていただいた先生へ感謝します。

剣道を始めて

小学六年　塩澤　橙弥

一年生から始めました。体験してみて楽しかったことと、お父さんも剣道をやっていたからです。剣道で学んだことがあります。①はきものをそろえることです。その結果自分の物を整頓することができるようになりました。②大きな声であいさつをすることです。まだ、はずかしくてできませんが、これからも努力していきたいです。③礼儀を大切にすることです。六年生になって、その意味が分かってきました。

毎回のけい古では辛い時もあるけれど、仲間と一緒にはげまし合いながら楽しくけい古をして、みんなで強くなっていきたいです。そして、大会では、今まで習ったことやワザを出し合って勝てるようにがんばりたいです。

小学生で習う剣道は後少ししかありませんが、先生方の教えをしっかりと学びたいと思います。

あいさつ運動の推進

教養部長　渋谷　章一

社会的に挨拶の大切さは理解されていながらも、現実としてできていないのが挨拶ではないでしょうか。これは子どもだけでなく、人間関係作りに悩む大人にとっても同じです。

昨年度より、松尾小学校の重点活動「あいさつ運動」に取り組みたいとの願いを受けて、まちづくり委員会としても取り組むことになりました。学校とPTA、地域とが連携したコミュニティスクール推進事業として「あいさつ運動」の一層の広がりを願っています。

今年度も、児童が登校する時間に合わせて、地区の役員が中心となり、小学校昇降口で取り組みます。児童に挨拶をさせることが目的ではありません。大人が率先して挨拶することによって、挨拶の大切さを少しでも感じ、地域に「あいさつ運動」を広げていきたいと考えています。

松尾十二地区の集会所・防災センター前には、挨拶標語の書かれた看板が設置してあり、年三回変わっていることをご存じでしょうか。これには長い歴史があり、育成会の大切な活動のひとつです。さらに、松尾小学校児童から挨拶標語を募集します。クラスで代表作品を選んでいただき、代表作品を掲載したクリアファイルを作成し、全児童へ配布しています。松尾自治振興センターの窓口でも配布しています。「あいさつ運動」が広がるようご支援をお願いします。

松尾に愛着を持つ子どもたちに

松尾小学校　校長　城田　純子

松尾小学校に本年度よりお世話になっております城田純子と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

松尾小学校「まけるな」の学校目標、そして相撲を熱心に行っている学校であることはかねてより聞いておりました。松尾地区では、地域の活動が大人数の良さを生かして活発に行われ、学校にも地域・育成会から多くのご支援をいただいていることに深く感謝申し上げます。今年度当初「つながり」をつくる活動のほぼすべてが実施不可能となりました。特に人数の多い本校では、より厳しい状況下にありました。しかし、そのような中、「松尾の子は松尾で育てる」この力強い合言葉のもとに、コロナ休業中の児童預かり、社会体育、科学実験教室、あいさつ運動など多くの場面で直接子どもに関わり、指導していただきました。

子ども達には、ふるさとである飯田市、そして、松尾に愛着を持って成長してくれることを願っています。愛着が生まれる基はふるさとを知ること、そして地域の人との関わりを持つことです。松尾について多くのことを子どもたちに教え、伝え、関わっていただきたいと思います。世代を超えたつながりや学びが、ゆくゆく地元を支える視点につながると感じています。

社会・子どもを取り巻く様々な課題多き現代、学校のみでは解決できません。子どもたちを真ん中に、力を合わせて進む方向を見出していきたいと思います。どうぞ今後とも学校へのお支えをお願いいたします。

小学校分散登校時 地域ボランティアが支援にあたる

二月に緊急事態宣言が出された後、小中学生は自宅待機をしてきました。この中で、児童クラブに在籍している子どもさん（保護者が昼間留守等になるご家庭の子どもさん）は、自宅にはおられないため、朝から下校時間までは、学校で受け入れを行い、下校後は、児童クラブへ行くという過ごし方をしていました。

五月の連休明けの十一日（月）から分散登校（全校の子どもが、三密にならないように、地区ごとに決められた登校日に登校する方法）が始まりました。そうなると児童クラブの子ども達の学校での教室がなくなってしまうことから、松尾公民館を臨時の教室として、下校時まで過ごすことになりました。さらに、支援に当たる先生が足りないという課題を小学校から伝えられ、地域としてなんとか支援をしたいという思いから、急遽支援に当ってくださる方々を探すことになりました。急な事ではありましたが、十三名の方が、十四日（木）から、二十一日（金）まで支援に入っていただくことができました。

公民館の和室は一年生、第一会議室は二年、講座室は三年生の教室となりました。一日五時間から六時間の授業は、「学習（自習）」「心の学習（ビデオ）」「読書（図書室）」「体づくり（城公園）」を学年毎にローテーションして過ごすものでした。十八日（月）からは、学校からの要請もあり、「地域の方から学ぶ時間」が設けられ、キャラクターを使った「ことわざカード」を作って遊ぶという活動を行いました。

参加した子ども達の感想

参加した子ども達のうち、三年に集まってもらい感想を聞きました。

○分散登校が始まってどうでしたか。

→友達や先生に会えてとてもうれしかったです。

○「学習の時間」はどうでしたか。

→宿題があって大変だったです。

○「ビデオ」はどうでしたか。

→「日本むかし話」がおもしろかったし、ためになりました。

○「城公園」はどうでしたか。

→「カツドウマン」と遊べておもしかったです。

○「図書館」はどうでしたか。

→たくさん本が読めたし、本を読んでくれて嬉しかったです。昔の食べ物の話もおもしろかったです。

○「キャラクターことわざ作り」はどうでしたか。

→紙を切って作るのが楽しかったです。もっと遊びたかったです。

○覚えていることわざはありますか。

→「苦しい時の神だのみ」「石橋をたたいて渡る」「頭かくしてしりかくさず」などがあります。

ボランティアの皆さんの感想

○急なお願いでしたが、お手伝いができたのかなと思います。

○地域の大人から、読み聞かせをしてもらったり、遊んでもらったりして、楽しんでもらえたのかなと思います。

○子どもと一緒に遊べたり、元気をもらえたりして楽しかったし、子どもの元気さに弱音を吐いてはいけないと思いました。

○学校のクラブボランティアをやっていたり（四人）代田地区で寺子屋をやっていたり（五人）することが、余り抵抗なくできる基になっていると感じました。

○急なことだったので、仕方がないのかも知れませんが、学校との連携とか、参加者の関わり方など、もう少し組織的な動きができればと思いました。

○学習の時間では子どもが自分の課題に取り組むようになっていましたが、課題がはっきりしない子も見られ、保育の時間であるように感じました。

○今回の急なお願いでも、地域の方々は応えていただけたので、学校は余り抱え込まないで、地域へもっとお願いをしてもいいのではないかと思いました。